

安倍9条改憲NO！署名

11月の運営委員会で、九条の会さかどとして「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」に取り組むことを決めました。お配りした署名用紙は、4月20日までに運営委員に届けるか、「〒350-0224 坂戸市山田町10-53 小林忠夫」宛てにご郵送をお願いします。

以下、九条の会事務局から届いた呼びかけ文です。

安倍9条改憲を阻むために 全国の九条の会は立ち上がりましょう

安倍首相は、日本国憲法施行70周年の5月3日、あえて挑戦するように新たな改憲の提言を行いました。今回の安倍改憲は、9条1項、2項を残しながら、新たに自衛隊保持を憲法に明記することで、9条を根本的に変質させ日本を「戦争する国」に転換しようという重大なねらいをもっています。森友、加計学園にみられる行政の私物化、自衛隊日報隠し、共謀罪法案の強行採決などとどまることを知らない悪政に対する怒りが噴出し、都議会議員選挙で安倍自民党は大敗し、その後も安倍政権は支持率の低下が続いていますが、首相は改憲を強行する決意を変えていません。憲法と日本の進路は今、戦後最大の岐路を迎えています。

安倍改憲を広範な共同で阻もうと、総がかり行動実行委員会をさらに広げ、19名の発起人の訴えに基づき「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が発足し、3000万署名を軸に安倍改憲を阻む行動が呼びかけられています。

九条の会は、結成以来憲法を改変するさまざまな企てに反対する行動の先頭に立ってがんばってきましたが、共同の行動のよびかけに名前を連ねることは控えてきました。9人のよびかけで発足した九条の会の役割は、あくまで全国7000余にのぼる九条の会の交流や連絡調整に当たることにあり、その多様な活動を縛ることは避けたいという思いからでした。

しかし、安倍改憲の企てを阻むことは、2004年に九条の会が発足したそもそもの目的にほかなりません。

そこで、会事務局は、よびかけ人と世話人の了解もいただいて、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」に組織として参加し、他団体と協力して活動する決断をしました。安倍改憲を阻むため、全国市民アクションの一員として全力をあげる決意です。

この重大な局面に立って、安倍改憲を阻む大きな共同の闘いを起こすため、全国の九条の会みなさんに、以下の3つの行動に立ち上がることを訴えます。

- 1 すべての会が、学習会を持ち、市民とともに、安倍9条改憲の危険性を改めて確認しましょう。
- 2 全国市民アクションが掲げる3000万署名を達成するために、会毎に目標をたて、戦争法廃止2000万署名の経験を生かしながら、全国津々浦々の草の根で宣伝と対話を広げ署名の輪を広げましょう。
- 3 それぞれの地域で他団体と協力し合って市民アクションを立ちあげ、安倍改憲阻止のための市民アクションの取り組みに積極的に参加し、共同の輪を広げましょう。

【投稿】平成30か兵制元年か

伊豆の山町 川瀬渉貫

年賀状を書きながら、テレビ画面に涙がポロポロ落ちてくる。天皇夫妻のベトナム訪問の放送である。ベトナムの独立戦争を共にした元日本残留兵が余儀なく帰国させられ、残された現地ベトナム人家族たちとの面会シーンだった。

譲位の見通しにも急かされ、隅をほじくるように謝罪懺悔行脚を重ねるご夫妻の気持ちに、同い年でもある私の意思に関係なく、目が濡れ潤い、頬がじとじとになってくる。象徴と限られながら精一杯の努力で、反戦・平和の主張を全うしようとされる姿は美しい。

年賀状にはいつも西暦で記してきたが、今回はあえて「平成30元旦」と書く。「兵制元年」ではない。狼少年のアベの如き、受け身の「平定元年」で身売りされてはたまらない。

武器を作り、売り買いして世過ぎするのはやめよう。

九条の会さかど 早春のつどい

日時 2月25日(日曜日)13時から16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

参加費 1500円(食事と飲み物)

一緒に食べて、一緒に飲んで、一緒に語りあって！

9条のこと、平和のこと、伝えたいこと、やりたいこと、一人ひとりの思いに耳を傾けましょう。食事と飲み物の用意をしますので、ご参加を2月22日(木曜日)までにご連絡ください(049-283-4723 栗原)

どうせ市民の懐には入ってこない。

そのために命をかけて、他国人の生命・生活を奪うことはやめよう。

今や武力で己を守ろうというのも幻想である。

私たちは70年前に「ポツダム宣言」に基づき戦争放棄を宣言した。それが日本国憲法の大黒柱である。

戦時下の人も、戦争を知らない人たちも、この辺で少し知恵を働かせる時であろう。

まずは、アベ一強、アベノミステイクスにご遠慮ねがうことであろう。

.....

戦跡めぐりの配布資料から

西坂戸 大山 茂

プロローグ「一夜のうちに強制収用」

- 大戦争準備のため、航空戦力を急速に増大させなければならなかった
- 陸軍皇道派は対ソ戦争を準備していた。航空兵力の急速な増強のため大量の航空戦力幹部養成が必要で、帝都に近く市ヶ谷の士官学校にも近い場での整備が必要とされた。
- 陸軍航空士官学校(入間市から狭山市にまたがる現在の入間基地)の建設の経緯。
- 一夜にして強制収用されたこの土地は、なぜ選ばれたのか

関東ローム層の粘土質の土地は水田には向いてないが、畑地として整備されつつあったが、広く平らな粘土質の土地は滑走路整備には適していた。

- 陸軍の航空戦力増強の都合で、立川、所沢、入間、坂戸、熊谷、中島飛行機があった太田市まで南北に一直線に並べられた。坂戸はその中心的な位置。
- 電車で憲兵が乗り、飛行場脇を通る際には遮光板が下ろされた。
- 若い将校、学生のための「里親制度」があった。
- 今でも残る飛行場の跡(戦跡めぐり)
- 巨大な格納庫が昭和30年代までであった。
- 飛行場での「ペトン」は「ベトン」
ペトンを辞書で引くと「【中国語】中国江西省の景德鎮窯で焼成する陶磁器用の土。転じて、陶器の素地土」とあるがこれとは違うはず。ペトンではなくベトン(Beton)で、ドイツ語でコンクリートのこと。

エピローグ「米軍基地化を阻止」

- 開拓民の反対運動で米軍無線基地化を阻止。
 - 飛行場跡地を「桜と緑の名所に」と観光協会が植樹。
- ### 鶴ヶ島町史編纂室発行「鶴ヶ島町史 通史編」より『陸軍坂戸飛行場の建設』

太平洋戦争の前年、昭和15年2月、陸軍坂戸飛行場の建設が関係住民に知らされた。飛行場用地は、大字大塚野新田の全部と大字五味ヶ谷の一部が予定され、国土防衛上一刻も早く建設に入りたいとの説明であった。

この降って沸いたような話は、地元関係者に深刻な衝激と不安を与えたが、当時の軍の強大な権力と威力の前では、住民の側から権利を主張するすべはなかつ

た。結局、5月から工事着手という国の方針に対して折衝らしいこともないまま、大塚野新田の8戸9世帯と五味ヶ谷の15戸の移転が決定した。

当時、軍の係官は、土地の有力者宅に泊まり込みで調査と打合せを行った。宿泊先には3食付で一泊3円が支払われた。用地買収価格は、土地によって異なり、山林で反250円、畑で350円から420円程度であったという。

全戸移転を余儀なくされた大塚野新田の住民は、協議の末、大字脚折の北部の字一天狗に永住の地を定めた。同地の御嶽神社境内に建てられた移転記念碑には、次のように記されている。

昭和15年5月鶴ヶ島村大塚野新田ハコノ地ノ東方二キロノ所ニアリ陸軍坂戸飛行場建設ノタメ買収セラレ全員コノ地ニ移転ス

五味ヶ谷では、飛行場敷地内に居住する2戸と、敷地外であるが飛行機の離着陸に障害となるとされた13戸とが、移転を強いられた。移転先は全員五味ヶ谷の内であった。

一方、大字戸宮は、飛行場建設により村内の他の大字と地理的に分断されることとなった。その結果、行政、経済、社会、教育等の全般にわたり様々に支障をきたし、とりあえず警防団は勝呂村との連携をなし、児童は勝呂村国民学校に転校するという形で対処した。こういった状況の中で、非公式ながら満洲への移住の話も軍から提示されるなどしたが、最終的には鶴ヶ島からの分離という結論となり、昭和17年12月隣村の勝呂村に編入した。

飛行場は正式名称を陸軍航空士官学校坂戸飛行場といい、士官候補生の飛行訓練が行なわれた。8棟の格納庫には、戦闘用、爆撃用の練習機が置かれ、それぞれ戦闘機隊と爆撃機隊の訓練に使われた。

訓練生は、実戦配備の際には少尉に任官されたが、訓練中の事故も少なくなく、五味ヶ谷に練習機が墜落し死亡事故を起こしたこともあった。

昭和19年に入ると、度々艦載機のP51が飛来し、飛行場への機銃掃射を繰り返すようになり、周辺住民からも直接の被害を被る者が出るようになった。またこの頃には、ガソリン不足のため航空燃料に代わり松根油等のアルコール燃料が代用されるようになり、十分な訓練のできる状態ではなくなっていた。20年3月には、とうとう全ての飛行機が、敵機の来襲を避けて坂戸飛行場から撤収していった。

鶴ヶ島村に大きな波紋を投げかけ、地域住民の犠牲の上に建設された坂戸飛行場は、昭和20年8月15日、その使用期間わずか数年にして終戦を迎えることとなった。そして終戦後は、復員兵や外地引揚者が入植し、固められた土がこんどは逆に開拓地として耕作されるようになったのである。

.....

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

1月25日、2月22日、3月22日(第4木曜日10時~12時)
会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。